

平成 26 年度前期 授業改善アンケートの概要

[I]はじめに

授業改善を目的として、平成 26 年 6 月 26 日（木）～ 7 月 19 日（土）の 3 週間にわたって、学生による「授業改善アンケート」をほぼ全科目で実施しました（*1、2）。ご協力ありがとうございました。以下では、原則として回答番号の「5（肯定的評価）」から「1（否定的評価）」までを点数とみなして合計し、回答者数で除した「平均点」を項目別に表示しました（*3）。

①プレゼンテーション技術	01. 教員の言葉は全体として明瞭で聞き取りやすかったですか
	02. 板書やスライドなどの文字は見やすかったですか
	03. プリント・スライド・VTR 等の教材は、授業の理解を深めるのに役に立ちましたか
②授業の運営方法	04. 講義は講義細目の通りでしたか
	05. 教員は、私語について注意するなど受講環境の適切な確保をしましたか
	06. あなた自身にとって、各回の授業の量はどうか感じられましたか
	07. あなた自身にとって、この授業のレベルはどうか感じられましたか
	08. 教員の熱意は伝わりましたか
③受講態度の評価	09. 授業方法は、あなたの理解度や到達度に留意し工夫されていましたか
	12. あなたは予習・復習など、授業時間以外での学習をしましたか
④受講結果の評価	10. あなたは授業内容に触発されて、参考書を読むなどの学習意欲をかきたてられましたか
	11. あなたは授業内容をどの程度理解できたと思いますか +SQ 理由を問う副問
	13. 総合的に見て、この授業にどの程度満足しましたか +SQ 理由を問う副問

*1：従来は授業評価アンケートと称していましたが、目的に添って授業改善アンケートの名称に改めました。

*2：匿名性の確保が困難な「履修登録者数が 5 名未満の科目」、結果の意味が曖昧な「複数教員の担当科目」は、原則として実施対象から除外しました。

*3：問 04・問 06・問 07 は、回答番号が単純に肯定・否定を意味しないため、平均値としての表示はしていません。

[II]検討結果

集計結果と自由記述は担当教員に配布しました。そのうえで、学科などで議論した結果、次のような対応策（アクションプラン）と学生への要望が示されました。大学の授業は、教員と学生がともに新しい知識を求める熱意と努力を共有することで成り立ちます。教員も授業改善に努めますので、皆さんも提言を受け止めて、大学生として求められる受講態度をつくるように努めてください。

●総合教育センター

【センターの対応】

- ① 学生からの評価は多くの項目でおおむね「4」であり、現在の授業内容や学習活動に対して一定の満足感が得られていると分析できます。今後もこの状態を維持するべく、わかりやすい授業、学生のための授業になるよう工夫を継続します。
- ② 「12 授業以外の学習」の項目だけおおむね「3」の評価ですが、これを「学生の努力不足」と考えるのはあまりに安易であり、危険と考えます。専門科目の学習に手一杯となり、総合教育センター開講の科目に対して時間を振り向けることができない学生も見受けられるからです。安易に授業外の課題を課すのではなく、学生の負担に配慮し、授業時間内に課題の時間を設けるなどの工夫が必要であると考えています。

【学生への要望】

- ① 授業改善アンケートは学生自身が授業への取り組みを振り返るものでもあります。自分自身の学び方を考える機会にして下さい。

●生命環境学部

生命科学科

【学科の対応】

全体的な評価の改善は認められるものの、講義外の学習についての不足が依然として眼につく状況です。各講義において講義外の学習を増やすような取組みをより心がけるようにします。

【学生への要望】

- ① 講義後に復習をして問題点を理解した上で、次の授業に臨んで下さい。
- ② わからなかった場合は必ず質問に来て下さい（講義終了後直接でも講義の空き時間に教員オフィスに出向いても、どちらでも結構です）。
- ③ 次講義室前の廊下で待機している際に、講義中にも関わらず声を上げて騒がしくしている学生が見られます。他の講義の邪魔をしないよう、極力注意して下さい。これは他の学科にもあてはまる基本的なことです。

自然環境学科

【学科等での対策】

アンケート結果を前の期と比較・検討し、結果が大きく改善した点がある教員から、改善につながったと思う工夫を紹介してもらいます。この情報交換により、学生の習熟度や満足感が増す授業となるよう改善を進めていきます。

【学生への要望】

実習や実験を通して実践的な知識と技術を培う本学科の特徴をより効果的なものとするためには、講義による広範な基礎知識の習得が不可欠です。まず、講義には欠かさず出席し、怠りなく自宅学習にも取り組んで下さい。その上でさらに疑問や理解の難しいことがあれば、講義内容に限らず、その基礎となる知識や学習方法なども恥ずることなく質問して下さい。

アニマルサイエンス学科

【学科の対応】

学科が扱う分野は我が国においては比較的新しいため、これを学ぶために必要十分な教科書がないという実態があります。これに対応するため、各教員が

- ① 教科書となる諸外国の文献の翻訳、
- ② 教科書の編纂、
- ③ 学習に必要な図書のリスト作成

に努めます。

また、教員が関与した図書を学生が購入する場合、著者割引、冊数をとりまとめ割引率を高くしてもらおうなどの工夫をして学生の負担を軽減します。

【学生への要望】

講義時に必要であると紹介した図書は極力購入するよう努めて下さい。

●医療科学部

理学療法学科

【学科の対応】

- ① 理解不足や実技習得に対して、補講や授業時間外での教員在室による実習室の解放などを行っています。
- ② 授業開始時に前回授業分の振り返りとして小テストを実施したり、レポート課題にて復習が行えるように工夫しています。
- ③ 小グループ制によるグループワークを中心とした授業や、多数教員によるオムニバス授業、一科目への多数教員配置など多面的に学生を指導、評価を実施しています。

【学生への要望】

- ① 大学の図書館など施設、資料を用いて予習、復習などの自己学習を実施して下さい。
- ② 授業に出席することは大前提です。
- ③ 課題レポートなどの提出物の期限を厳守し、必要な体裁を整えて提出してください。
- ④ 空き時間などの実習室使用（授業で使用していない場合）が可能ですから、積極的に自己学習を行って下さい。質問等は学科教員が随時受け付けています。
- ⑤ 到達目標を確認したうえで、興味がある分野には積極的に取り組んで下さい。また、理解度の低い授業を放置せず、担当教員との関わりを積極的に構築する姿勢を作ってください。

作業療法学科

【学科の対応】

本学科の評価が全体的に下がったことの原因を検討し、以下のアクションプランを実施します。

- ① 学生にシラバスを読み授業準備をするよう働きかける。
- ② 頻繁に国家試験に必要な学力レベルを確認するよう学生に働きかける
- ③ 授業スタイルを多様にし、学力レベルのことなる学生にも対応できるようにする

【学生への要望】

アクションプランの①、②で挙げたように、シラバスを読み授業準備をすること、国家試験に必要な学力レベルを様々な機会を通して確認することを心がけてください。

柔道整復学科

【学科の対応】

- ① 教材や資料など教員相互で情報交換し授業に活かします。
- ② 教員間で学生の情報を共有し受講環境改善に役立てます。
- ③ 予習・復習を学生に促し学生の喚起を考えた授業を進めます。
- ④ 教員相互の授業評価を学科で検討します。
- ⑤ 国家試験情報を適宜学生に伝え意欲をかきたてる方法を考えます。
- ⑥ 熱意を感じられる授業を展開し授業の理解を深めます。

【学生への要望】

下記のような受講態度を臨みます。

- ① 授業中は私語等他人に迷惑をかけない。
- ② シラバスを読むようにし、シラバスとかけ離れた授業には助言教員に改善を図るように要請する。
- ③ 予習・復習を行い理解度の低い授業を放置しない。
- ④ 課題などの提出期限を厳守する。

授業への出席が大切であることを認識し、医療専門職になるという意識を持ち、授業中は私語や居眠りそして他人に迷惑をかけないことを守り予習・復習の習慣を身に着け主体的に学習する態度を身につけて下さい。

東京理学療法学科

【学科の対応】

- ① 13のアンケート項目のうち、点数が高いほどよい評価を示す8項目のうちで平均点数の4点台が5項目、3点台が3項目であり、「どちらとも言えない」に相当する3.0点よりも低い項目はありませんでした。おおむね前期科目での「プレゼンテーション技術」や「授業の運営方法」に関しては学生達の学習にとって大きな障害はないものと考えます。一方、不満者の改善意見では、「板書の仕方、話し方など」が最も多くなっています。今後も各項目を指標として授業方法の改善に努めます。
- ② 「各回の授業量」や「授業のレベル」については、「ちょうどよい」との評価が最も多いものの、量が多い、レベルが高いと感じる学生が半数ほどいました。一方、「授業時間以外の学習」を「よくした」もしくは「ある程度した」という学生が3割に満たない現状があり、とくに2年次科目での授業時間外学習の少なさが目立ちます。卒業時に国家試験を受験する学生達に対して、必修科目での授業の量を減らしたり、そのレベルを下げることは、一時的に評価を上げることになっても最終的に医療職につく上でのプラスにはなりません。自学自習を促す適切な課題や小テストの効果的な実施、補講や授業外での実技練習、小グループや個別での学習支援など、なるべく学生達の学習意欲と学習機会を増やすように努めます。
- ③ 極度に低い評価（評点が中性点3点未満）を受けた項目がある科目担当教員（常勤・非常勤講師）に対しては、改善に向けてのプランを立てて実施するように促します。数年間観察し、改善が見られない場合には、学科教員による授業参観や学生からの声に耳を傾けるなどで、評点の低い項目に関する問題点を探し、科目担当教員と共同して問題解決を目指します。

【学生への要望】

- ① 「理解不足の原因」の項目では、学生の5割弱が「勉強の仕方がわからない」、3割強が「専門用語などが難しい」と「自分の勉強不足」を挙げています。授業中やその前後、オフィスアワーを含めて随時学生からの質問に対応します。疑問点はできれば授業時間内に、できなければ空き時間に科目担当教員や学科教員を探しまわってでも質問し、解決して下さい。
- ② 授業以外の学習を「ほとんど」または「全く」しない学生が3割弱もいます。「少しした」（即ち、少ししかしていない）学生を加えると7割以上ですから、毎日の授業外学習が極めて不足している学生が多い現状が伺えます。ほとんどが必修科目であり、その不合格が留年に直結する本学科にとって由々しき状態です。履修している各科目の学習内容は、国家試験に直結するのみならず、将来の理学療法士の仕事の基礎となるものです。期末試験直前になって詰め込み式に復習するやり方を改め、授業内容を振り返り、疑問点を調べ、まとめるなど、毎日自宅で十分に復習する習慣を身に付けるようにして下さい。

東京柔道整復学科

【学科の対応】

- ① 「各回の授業量」「授業のレベル」・「授業の理解度」の評価結果を検討し、次のアクションプランを実施します。

- ・復習部分と予習部分の指示を明確に指導する。
- ・勉強の仕方の指導、もしくはその授業内容を振り返る穴埋め問題的課題を作成して毎回提出させる。

(参考)

SQ6. 各回の授業量	49.9%	多い・やや多い
SQ7. 授業のレベル	50.3%	高すぎる・やや高い
SQ11. 授業の理解度	39.8%	少し理解
	7.6%	あまり理解できない・全く理解できない

② 理解不足の原因・授業以外の学習・不満者の改善意見から、次のアクションプランを実施します。

- ・自分で勉強不足・勉強の仕方がわからない・専門用語などが難しいことを理解している。予習、特に復習を実施させる指導が必要
- ・授業のポイントをより明確にする。他の資料や映像でポイントを繰り返す。
- ・理解すれば楽しくなり、継続することを示す。

(参考)

SQ11. 理解不足の原因	40.7%	自分の勉強不足
	32.6%	勉強の仕方がわからない
	34.3%	専門用語などが難しい
	23.8%	授業のポイント不明
SQ12. 授業以外の学習	20.6%	ほとんどしない・全くしない
SQ13. 不満者の改善意見	36.5%	学習の仕方等の指導法
	37.6%	各回の授業量レベル
	48.2%	板書の仕方話し方など

③ 先生、友人、先輩を活用するような指導やシステム環境の創設を検討します。

【学生への要望】

- ① 授業には予習・復習をして臨んで下さい。
- ② 提出課題は必ずやって下さい。
- ③ 毎回の授業で不明な点や不安な点を残さないように、先生、友人、先輩を活用して下さい。

看護学科

【学科の対応】

- ① オムニバスが多い看護学科の科目に適した授業改善アンケートを提案していきます。
- ② 主体性を育む教員のかかわり方について検討し、学科内 FD 委員会で教員に対する研修を企画しています。大学全入時代の今日における学生の現状(レディネス)を理解して教育力・指導力を強化し、お互いの授業参観なども検討します。
- ③ 3月10日の教員の研修では、「看護を教授すること」として講演とグループワークをおこないました。

【学生への要望】

- ① 入学時から大学生として主体的学習習慣を身につけ、看護専門職としての基盤になる学習に自分から主体的に学ぶ姿勢を醸成して下さい。自己の学びとして学習するのであることを忘れずに、聞く姿勢をもつ授業態度が前提です。朝からうつ伏せて寝ている学生などは論外です。
- ② 授業が始まってすぐ席を立つ学生がいますが、トイレの自己管理をきちんとして下さい。

●こども学部

こども学科

【学科の対応】

- ① 自宅学習を促す方法を検討します。
- ② 私語厳禁を徹底します。
- ③ 「分かった」と思える授業の工夫に取り組み、満足度を上げます。

【学生への要望】

- ① 自宅学習の習慣を身に付けるよう努力して下さい。
- ② 私語を慎むという基本的なことを守ってください。
- ③ 分からないことがあればためらうことなく質問して下さい。
- ④ どのような授業を望むのか、アンケートには具体的に記述して下さい。

児童教育学科

【学科の対応】

- ① 平均値が前回より上向いているのは良い傾向と考えています。
- ② 学習意欲を喚起するために、提示しながら学生から回答を求めるように授業を工夫します。

- ③ 学生の授業への関心度が高まるように、授業以外の学習をほとんどしていない状況の改善を各教員が工夫します。
- ④ 授業改善アンケートが有効に機能するよう学生の授業態度や授業への取り組みの改善を優先します。

【学生への要望】

- ① 授業以前のことで毎回、同じ注意をされないよう、大人としての対応を望みます。
- ・ 教室では脱帽
 - ・ 飲食物を机の上に置かない
 - ・ トイレであっても無断で席を立たない
- ② 直ぐに誰かに聞くのではなく、じっくり思考する力を高めて下さい。
- ③ 授業を改善するためのアンケートですから責任を持って答えて下さい。
- ④ 教員に対して授業への不満を持つのは構いませんが、自分自身の授業態度や取り組みに対しても真摯に反省して下さい。

今年度も「授業改善アンケート」を実施しています。ご協力をお願いします。